

議会だより

特別号

平成28年10月14日

町役場旧館基礎調査の結果

町庁舎耐震化・「増改築」整備検討特別委員会

「豊郷町役場庁舎旧館基礎調査」の結果が、平成28年9月5日の町庁舎耐震化・「増改築」整備検討特別委員会(以下、「特別委」)に報告されましたので、お知らせします。

これは、それまで、町が「旧館の基礎の状況は分からない。」と説明してきた事に対し、「特別委」で「旧館の基礎の調査を行う。」事を決定し、町に申し入れて実施されたものです。



旧館（北面）

報告書

豊郷町役場旧館基礎調査におきまして、現地における掘削から基礎寸法確認、コア抜き取りから配筋調査及びコンクリート圧縮強度試験等を行い、構造計算にて基礎及び建物の解析を行いました。基礎については、 $W1200 \times D1200 \times H300$ ($\phi 13$ クロス)

地中梁については、 $W550 \times D600$ (上端筋8-D19 下端筋8-D19ST. $\phi 9$) などが、調査できましたので、そこより構造計算いたしましたところ、地盤地耐力に対して、基礎寸法が小さく耐力が取れていません。また、地中梁を考慮しても同様に耐力が不足している状況でした。

補強に関しましては、基礎の拡大などの方法がありますが、施工が非常に困難で、基礎自重の増加を考慮しますと、杭を打設する必要があることも考えられます。実際のところ、杭打設は不可能であり、基礎の拡大自体も施工困難な状況であり、現実的には補強不能の状態と考えられます。

役場旧館基礎調査状況

旧館の外部2ヶ所、内部2ヶ所を掘削し、調査された。



空隙が入っており、耐久力が不足しているコンクリート



上屋の重量に耐えるだけの寸法がない基礎



作業状況



抜かれたコア

質問① 旧館の耐震は

回答 庁舎旧館基礎調査におきましては、現在の状況のままで、現状の基礎が上部建物の力を十分に地盤に伝達できていないことを、構造計算上確認したものであります。

また、以前に行いました旧館建物耐震診断補強計画において、現状のままでは地震に対するリスクがあり、補強が必要である旨を報告いたしました。さらに、鉄筋コンクリート造の耐用年数としましても、一般に言われています60年をゆうに経過し、コンクリート強度の低下も心配されます。

これらは、新耐震基準に合致した耐震診断計算方法で行っております。ただ、補強しない状態で、一概に震度〇〇で損傷倒壊するということは申し上げられません。ただ、現在まで長きにわたる使用に耐えてきた現状からも、震度5強くらいまでは倒壊せずに残るのではないか、その際の損傷の程度などは分かりませんし、倒壊しないと言い切れるものでもございませんが、おおむねそのような見解となります。

質問② 本館の耐震は

回答 耐震診断および補強計画で出させていただきました内容は、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」に基づき、新耐震基準に合致した耐震診断計算方法で行っております。ただし、震度階に対応したものではありませんので、どの震度に対して大丈夫かということは明確に言うことはできません。今回の補強計画に基づいて補強を行った場合には、おおむね震度6弱程度までの地震に対して倒壊することは無いと言える程度であり、損傷の度合いまでは明言できません。